

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

03

定価 **690円** (税込)

2010/2/23



特製
バインダー

絶賛発売中!!

- Mechanic Sheet
エヴァンゲリオン式号機 **A**
- 国連軍兵器
- Character Sheet
惣流・アスカ・ラングレー **A**
- NERVスタッフ
- Tactics Sheet
第4使徒シャムシエル戦
- Timeline Sheet
使徒、襲来
- Installation Sheet
ジオフロント
- Technology Sheet
プログレッシブ・ナイフ
- Extra Sheet
用語辞典／企画書／トピックス



汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

式 号機

実戦機として建造された

鮮紅のEVA



EVA-02 PRODUCTION MODEL

本格的実戦を想定した EVA先行量産モデル

NERVの「アダム再生計画」——通称「E計画」のもとに、14年の歳月と天文学的な予算を費やして建造された汎用人型決戦兵器・人型人間エヴァンゲリオン。その制式モデルであるEVA式号機は、機体の形式番号「EVA-02 PRODUCTION MODEL」からもわかる通り、量産化を前提として開発された初の機体で、設計と部品の製造を日本で、組み立ておよび起動実験をドイツのNERV第3支部で行なっている。

そのためこの式号機は、プロトタイプの零号機、テストタイプの初号機と異なり、胸部装甲や肩部装甲などが量産化を前提に簡素化されているほか、頭部に4つの補助光学カメラと電磁波センサーを持つなど、零号機、初号機の実験、開発で培った様々なノウハウと、実戦での運用を想定した設計、実装が施されており、対使徒用の汎用決戦兵器としてかなりのポテンシャルを秘めているといえよう。

操縦者は、セカンドCHILDREN、惣流・アスカ・ラングレー。なお、式号機には、接触実験において、操縦者の母親、惣流・キョウコ・ツェッペリンの精神崩壊を招いたとされるコアが用いられていると言われるが、詳細は不明である。



突如現れた第6使徒ガゼルを退治するために出撃した式号機。機密艦の甲板を足場にして、初めの海上戦をこなしたEVAでもある。



手柄を立てるべく、EVA式号機は初号機の操縦のもと、ソニックグレイブで第7使徒イスラファルを真っ二つに分断しようとした。

DATA

機体:EVA-02 PRODUCTION MODEL

式号機

搭乗者:2nd Children

惣流・アスカ・ラングレー

主武装:WEAPON

ブログレッシブ・ナイフ(改)

ソニックグレイブ

スマッシュ・ホーク 等

機体配色:COLOR



これこそ実戦用に造られた、
世界初の、
本物のエヴァンゲリオンなのよ
(惣流・アスカ・ラングレー)

前面 FRONT

背面 BACK

関連事項 RELATED MATTERS

- 惣流・アスカ・ラングレー
- 惣流・キョウコ・ツェッペリン
- 渚カヲル
- 旧日軍沖波遺戦



セカンドCHILDREN、惣流・アスカ・ラングレー。14歳でドイツの大学課程を修了した天才少女。プライドが高い。

式号機の構造

実戦での運用と量産化を前提として建造されたEVA式号機は、零号機や初号機と異なり、装甲や兵装などの一部が共通化されているため汎用性が高く、様々な状況に対応することが可能となっている。

ベースとなる素体は、零号機、初号機と同様に生体パーツらしきもので構成されており、テストタイプの実戦データをフィードバックすることで、素体自身の能力も向上されていると考えられる。そのほか神経接続や精神汚染の防止性能など、EVAのソフトウェアでの効率化も図られているであろう。また、ソフトウェアによるハードポイントと見られる肩部左右には、改良された接近戦用の武器を装備している。

総合的に性能が向上していると考えられる式号機だが、稼動のための莫大な電力は如何にも難しいよう、稼働時間面での性能向上は見られない。



EVA輸送用の改造タンカーの中での式号機。L.C.L.とはLVカプセルに改造されている。頭部はEVA搭乗の用に邪魔にならないように真横を向く形で収納されている。

浅間山火口内部で発見された後援を機体すべし、局地戦用D型装備に身を寄せてEVA式号機。外見は巨大な潜水艇のようなが、耐熱、耐圧、耐核性能を持つ特殊兵装である。



外装

構造が人体に酷似しているEVAは、極体のあらゆるところに可動部分がある。そのため生体パーツである素体をインナーと呼ばれるスーツで覆い、その上に装甲を装着する二重構造とすることで、関節などの可動部分を保護しつつ、運動性能の低下を防ぐ仕組みを持つ。特に式号機は汎用性と量産化を前提としているため、機体の各所が簡素化されていると考えられる。



実戦での本格運用を求められた機体であるため、零号機や初号機と比べて、肩部と胸部の装甲に実用的な改良が見られる。

特殊装備

対使徒戦用の人型汎用兵器として設計、建造されたEVAは、状況に応じて戦術をフレキシブルに変化させる運用を主軸とし、通常は標準装備であるB型装備しか身に付けていない。そのため、様々な局面での運用を想定した特殊装備が開発された。ただし、これらの特殊装備は、制式モデルであるEVA式号機での運用を想定して開発されているためか、D型装備のような一部の装備は、プロトタイプである零号機では規格が合わず、装着することができない。なお、EVAの代表的な兵装には、標準装備であるB型装備のほか、局地戦用のD型装備、飛行用と思われるB型装備などがある。



火口内部のマグマ層に落ち、アスカが装着した耐熱性能のD型プロテクトスーツ。右手裏のスイッチを押すとマグマがスーツを覆い、操縦者を熱から守る。

←頭部前面



↓頭部後面



零号機、初号機と異なり式号機は4つの目を持つ。なお、通常見えている部分は光学カメラであり、素体の目は装甲によって守られている。

←局地戦用EVA-D型装備



潜水艇のような外見の局地戦用装備。「D」は「DIVE」——潜水仕様の意味と思われる。耐熱、耐圧、耐核防護服としての性能を持ち、水深1700mのマグマの中でも活動が可能。頭部と同様に接続されたタイプは冷却循環用のものであり、マグマの熱からEVAと操縦者を守る。後援操縦用のキャッチャーのほか、胸部にプログレッシブナイフを持つ。

特記事項

式号機の内蔵兵器 白兵戦用武器

EVA式号機の内蔵兵器は、肩部マルチウェポン・ベイに格納されたPK-02 プログレッシブ・ナイフ(改)である。これは初号機の稼動データからフィードバックを受け、ドイツで改良されたプロトタイプと思われる。PK-01タイプとは異なり、カッターナイフ状の刃を持つ。そのためカッターナイフと同様に刃が折れても、瞬時に替刃と交換することが可能である。



左側の外装パーツが右に折れ、内部の刃が露出する。折れた外装パーツは、折れた刃を保護する役割を果たす。折れた刃は、折れた外装パーツの内部に収納される。

↓プログレッシブ・ナイフ(改) PK-02



式号機のプログレッシブ・ナイフ。戦闘用のためか、実際のカッターナイフとは刃が逆向きの構造を持つ。刃の部分はPK-01タイプと同様に、高熱耐性で折れにくい圧縮成形されている。

↓プログレッシブ・ナイフ(改) 慣習せり出し機構



慣習によって柄の部分から折れてしまったプログレッシブ・ナイフ(改)の刃。破損し、使い物にならなくなった刀身を、柄の奥から新しい替刃で勢いよく前面へ押し出し、古い刃を出し、破棄することで入れ替える仕組みを持つ。

セカンドリドレン 怒流・アスカ・ラングレー

セカンドリドレンと呼ばれる2番目の搭客者で、EVA式号機を操縦する。14歳という若さで大学卒業の経歴を持つ天才少女。ドイツにあるNERV第3支部に所属し、式号機の起動、操縦訓練を受けていたエリートである。プライドが高く勝ち気な性格であるため、消極的な碓シンジや人形のような綾波レイに対して苦立ちを露わにしている。しかし、他人を思いやる気持ちも持ちあわせており、クラスメイトである洞木ヒナリとは仲が良い。母親は日本人とドイツ人のハーフである惣流・キョウコ・ツェンペリン。



休学滞米の翌日、転校生として現れたアスカは、真流と自己紹介を始めた。



自らの能力に
絶対的な



NERV



2nd Children

惣流・アスカ・ラングレー

SORYU ASUKA LANGLEY

矜持を
持つ少女



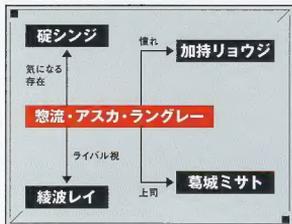
個人情報

名前	惣流・アスカ・ラングレー
年齢	14歳
国籍	アメリカ合衆国
生年月日	A.D.2001/12/04
血液型	A型
所属	NERV/EVA式号機専属操縦者

初号機で一応の完成を見たEVAシリーズのプロダクションモデルである式号機。その専属操縦者が惣流・アスカ・ラングレーである。綾波レイに続く第2のEVA操縦資格者セカンドチルドレンにある彼女は、式号機の最終組立と起動実験が行われたドイツにて操縦訓練を重ねていた。余談だが、彼女は日本人とドイツ人のクォーターであるが、国籍はアメリカ合衆国に置かれている。

そのアスカが初の実戦に臨んだのは、式号機と彼女がドイツより日本に移送されている最中、第6使徒との太平洋上における戦闘であった。作戦指揮を執る葛城ミサト一尉の許可なしに、自身の判断によりリザードチルドレン碓辛ジと共に式号機に搭乗。一時は通常装備のまま海中に引きずりこまれ窮地に立たされるが、国連軍太平洋艦隊との連携作戦により使徒を撃破する。それ以後は日本に駐留し、他の操縦資格者たちと同様にNERVに属して使徒迎撃の任務に当たることとなる。

彼女の搭乗する式号機は、実戦への投入を想定された機体であり、局地戦のための特殊装備にも対応している。実戦配備後は前線での攻撃を受け持つことが多く、攻撃的な性格のアスカによく適合した機体といえる。零号機と初号機は所詮プロトタイプとテストタイプであり、式号機こそ初の実戦用たる本物のEVAだと言い切るアスカは、自分の機体に強い愛着を持ち、まれに機体に向かって話しかける場面なども見受けられる。式号機は彼女にとって、誇らしき親友といえる存在なのだろう。

人物関連図

関連事項

- 加持リョウジ
- EVA式号機
- 碓辛ジ
- NERV



NERV特殊監督所属。同時に、日本国政府内務省保安部にも務めるなど、謎めいた部分が多い風貌とした男性。

表情


←日本人の血が1/4のみ混じったクォーターである彼女。その外見は赤みがかった茶色の髪に青い瞳と、ほとんど外国人のものだ。



←その瞳からは、彼女の意志の強さが見とれる。美しく整った顔立ちもまた、その意志と自信を支える要素のひとつといえるだろう。



シンジに向かって、自慢の機体である式号機を披露するアスカ。強い愛着が感じ、敬慕すら感じられる表情だ。



使徒に遭遇しても動じることなく、むしろ自らの能力を知らしめる絶好のチャンスとばかり不敗な笑顔を見せる。

私服
背面

正面


←彼女のトレードマークにもなっている赤いヘッドセットは、ブルグスーツ未装備時でもつねに身に付けている。

側面


↑一両年代の少女よりもやや大人びたスタイルを見せているかのうに、随分とシンプルながらも露出度が高い。

↑アスカが来日した際に着ていたのは、文が短めめの黄色いキャミソールワンピース。夏らしく爽やかな服装だ。

キャラクターシート

Character Sheet

惣流・アスカ・ラングレー

Sheet

03

惣流・アスカ・ラングレー という存在



→1号機から活動的な服装を好んで着用しているアスカ。髪屋でも外出着と同様に、シングルかつ露出が多い。



→引越し時の荷物の多さからも予測できる通り、他2名の操縦適格者とは異なり、私物の持ち合わせはかなりの多ようです。



自らの能力を周囲の人間に知らしめること——それがアスカの、汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンに乗る理由である。彼女はEVAの操縦適格者として選ばれたことに強い誇りを持つと同時に、幼い頃から操縦訓練で多大な努力も払ってきた。エリート的な操縦適格者としての自負が、アスカを支える軸となる部分だろう。逆に考えると、EVAに乗ることが彼女のすべてであり、それが失われた時には自我が崩壊し得る危うさをも孕んでいるといえる。

また、アスカは14歳にして既に大学課程を修了している天才でもある。他人に負けることを嫌う嫌う一面や、我が強く時に傍若無人に映る性格、自らの感情に忠実であることなどは、そういった非凡な能力や実績に裏付けられている。同年代の少年達を軽蔑するような態度をとり、「あんた、バカ?」と度々言うのけるものその表れだろう。

あらゆる点で、同じ操縦適格者であるシンジやレイとは対照的な彼女の到来は、シンジ達の人間関係に大きな波紋を投げかけることになる。



エスカレーター前で立ち止まって人の流れを止めてしまっているもの、そんなことは気にとめずシンジとの会話を続けるアスカ。彼女にとっては他人の感情などには気に留めるものでもないようだ。



漫画で「ママ」と小さく呟いた後、目涙を浮かべる。母親の愛情を強く求める心が、はっきりと表れている場面だ。

アスカは幼い頃に母親を亡くしている。その死因は絶死。自殺とされているが、その真偽は定かではない。一応、現在は父と再婚した義母がいるものの、それほど仲が良いわけではないようだ。アスカの強気な態度が誰にも頼ることなくひとり生きていこうとする心情の発露であるならば、母親の愛情を充分に受けることができなかった環境が、現在のアスカの強く攻撃的な性格を形成したと考えられる。

しかし、14歳の少女にとって肉親に頼らず生きていくのは過酷なことであり、ときに母の愛情を求める心を垣間見せることもある。本当は誰よりも、家族の愛情に飢えているのかもしれない。

家庭環境 が与えた影響

勝ち気

な性格 の影響



初対面の相手であろうと高飛車な態度で接するアスカ。自らを供するような真似は、彼女の信条に反するのだろう。

自分の意見を必ず口にするアスカ。高飛車上司であるミサトに対しても、まったく物怖じすることはない。



勝気な積極的な性格の持ち主であるアスカは、誰に対しても物怖じすることがない。自分の倍以上も年上であるミサトや加持に対しても、敬語を使うことなく近い友人のように会話をする。それが同年代の少女少女ともなればなおさらで、言葉で攻撃することも厭わない。そのため若干の軋線を生むこともあるものの、彼女は相手のテリトリーに割合容易に踏み込むことができる。それは、内向的な性格のシンジにすら、時に激しく口論をさせてしまうほどだ。

決して受身になることなく、いつでも攻めの姿勢を崩さないアスカの在り方は、敵を作りやすいと同時に、味方を作りやすいものだといえるだろう。

加持 リョウジ との関係



加持に賢い物に付き合ってもらったことができたアスカ。他の誰の前でも見せたことのないような、満面の笑顔を見せる。

特務機関NERVの特殊監察部に所属する加持リョウジ。自らは攻撃的な態度を取ることが多いアスカだが、彼の前ではそういった部分を見せず、むしろ素直さすら感じさせるようになる。それは、加持に対する憧れに近い恋心に起因している。プライドの高い彼女にとって、同年代の少年は幼稚で馬鹿にするべき存在であり、自らに見合うものではないのだろう。大人の男性である加持こそ、アスカの憧れたり得る存在なのである。ただ、加持から見たアスカはやはり14歳の子供であり、それなりの対応しかしてくれない。彼女自身それに感じてはいるようだが、かといって加持を責めるわけでもないようだ。



初対面のシンジを遠慮なく「汚えない」と評価するアスカ。お互いの第一印象は、最悪といえるものだった。



第7使徒迎撃作戦の訓練中に、シンジは固らずしもアスカのプライドに火をつけ、結果として作戦を成功させる。

訓練もなしに初号機に搭乗して実戦に赴いた上、初回から40%を超えるシンクロナスを叩き出したサードchildレン碓シンジ。アスカはその実績に対して強い対抗心を燃やし、自らの能力を見せ付けようとする。シンジを同乗させ、第6使徒に挑んでいった。それがふたりのファーストコンタクトだったが、以後、同じ住居や学校での生活、また度重なる共同戦線の中で、アスカはシンジに対して愛憎入り混じった気持ちを抱いていくこととなる。アスカの態度からは、シンジを馬鹿にしつつも認めている、しかしプライドがそれを許さない——そんな矛盾した感情が見てとれる。

碓 シンジ との関係

同居生活 が与えた影響



温泉で、ミサトの偉を知るアスカ。お互い辛い過去を持つ者同士、どこか通じるところがあるのかもしれない。

第7使徒迎撃作戦時より、アスカはシンジの場合と同様に、ミサトと同居することになる。最初は日本特有の機や鍵のない部屋に不満だったが、次第に慣れていく様子を見せる。シンジにとってミサトが家族になったように、アスカもまたその家族の一員となっていくのだ。ただ、同年代の男子であるシンジには、なかなか心を許さない。ちなみに、隣室で眠るシンジに向かって、部屋の間の襖をヘブライ聖書に記述された「ジェリコの壁」に喩えたが、この壁は、モーセの後継者ヨシュアに崩される。その喩えだと考えると、アスカのシンジに対する壁もいずれば崩れるという示唆とも見てとれる。



ロッカーには、アスカに好意を寄せる男子から大量のラブレターが。しかし彼女は、それらを無類にも読み潰す。



親友のヒカリを家に招き招待するアスカ。お互い物事を口をきりという性格のため、気が合うのかもしれない。

大学課程を修了している彼女にとって中学校の授業などは興味の持てないものに違いないが、異国での同年代の少女達との交流は、それなりに刺激のあるものだったと思われる。中学に転校した直後から、その端正な容姿のために男子からは絶大な人気を誇り、女子からはやかみの視線を受ける。しかし、基本的に積極的な性格のためにすぐにクラスには馴染んだようすで、笑顔で体育の授業を受けている場面なども見られる。また、アスカはその中学校生活の中で、洞木ヒカリという親友を得ることもできた。学校は、彼女が最も歳相応の少女らしさを見せる場所なのではないだろうか。

学校生活 が与えた影響



国連軍兵器

UN 陸上兵器



国連軍が保有する
地上戦力

セカンドインパクト以降に大規模な内乱を経験した人類。その後国連軍が再編成され、指揮下に東西の軍隊を取めた。日本の自衛隊も同じく編入されており、自国で保有する軍備がそのまま国連軍の制式採用兵器になったという経緯を持つ。そのため、国連軍の装備は各国ごとに異なると思われる。

自衛隊は自国の専守防衛を旨とするため、敵戦力の上陸阻止と対処に重きを置いた陸上兵器を持つ。航空自衛隊には世界各国で用いられている重戦闘機等が配備されている様子だが、陸上自衛隊には、日本の兵器が流用されているものと思われる。

第3使徒サキエルの迎撃に投入された陸上部隊は敵に歯が立たず、戦車大隊は全滅してしまう。以降、対使徒の作戦において運用されることはほとんど無くなってしまった。なお、使徒の迎撃に駆り出された陸上自衛隊は中部方面隊であろう。



東西の軍備が統合されたため、国連軍に加盟する各国で採用された兵器の統一が図られていない。そのため、国連軍には多種多様な兵器が存在する。



近衛自衛隊は迎撃に投入された陸上部隊を空けて、自衛隊が持ち残った軍備力と練度で世界有数の軍隊となった。



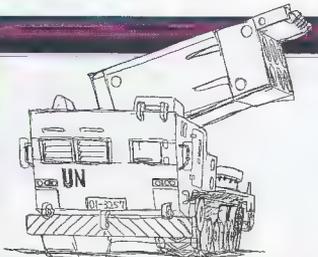
Ground Combat Vehicles

国連軍ロケットランチャー

多用途ロケット弾を運用する6連装型の自走発射機MLRS。[Multiple Launch Rocket System] (多目的ロケット発射システム) により、短時間で大量の火力を投入可能な長距離火力支援兵器で、M270の流れを汲んでいるものと思われる。事前にロケット弾が装填済みのコンテナを、発射機に入れ替えるだけで再装填可能なため、前線などでの危険な装填作業も短時間で済む。また、無限軌道で自走するため高い不整地機動力を持つ。



陸上自衛隊の野戦特化大隊に配備されている。日本では敵勢力上陸の迎撃に用いる兵器であり、奇しきも海上に浮かべたサキエムに似た、戦車隊と共に集中砲火を浴びている。

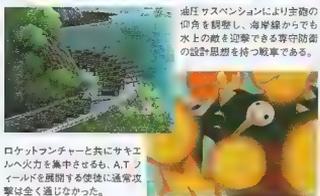


国連軍戦車

陸上自衛隊が保有する74式の流れを汲むと思われる戦車。丸みを帯びた傾斜装甲のフォルムとサイド・スカートのない車体を持ち、74式の105mmから90式戦車の120mm滑空砲らしき主砲へと変更されている。そのために、軽量ながらも主砲の反動を抑える高度なサスペンション制御が成されているようだ。なお、自衛隊の第3世代戦車が持ち得なかった、C41による車両間の情報共有と指揮統制能力をも有していると考えられる。



傾斜の多い日本国内で運用するため曲径サスペンションを用い、車体の傾斜や車身の上下も調節。斜風などに傾れて撃つ確率射撃を可能とした守りの戦車といえよう。



油圧サスペンションにより主砲の仰角を調整し、海岸線からでも水上の敵を迎撃できる専守防衛の設計思想を持つ戦車である。

独12式自走臼砲

大型のレーザーを搭載した自走砲。第2次世界大戦でドイツが考案したカール自走臼砲のコンセプトを受け継ぐ兵器であり、2012年に制式採用されている。搭載したレーザー砲の部分は左右の旋回が可能である見え、上下の仰角移動でしか照準をつけられなかったカール臼砲の欠点を改善しているといえよう。しかし、艦のある移動速度の遅さを改良するには至らなかったようであり、NERV本部では列車の固定砲台として使われている。



NERV本部では、列車上を使った鉄道軌道式の運用によって、自走臼砲の致命的な移動力不足をフォローする。

火力は申し分ないが、ラミエルには適はず、第1砲に放った直後に追加射撃の皮響を受けて消滅した。

追加報告

使徒の分析

第5使徒ファミル軍楽砲により出た初代12式自走臼砲。臼砲の使用は迎撃のためではなく、作戦態勢がファミル砲の性能や攻撃パターンを分析する目的である。その結果、一定距離内の外敵を自動排除するものと推測された。この目的よりEVA700の接近は危険視と判断され、第5使徒サットが攻撃作戦を立案する重要な点となる。



大出力を誇るレーザークラス転移空間を肉蔵で補填できるほどのA.T.フィールドによって完璧に防衛された。

特記事項

戦略自衛隊の陸上兵器

2003年、南沙群島において中国とベトナムの軍事情勢が発生した。この紛争をきっかけとして、日本自衛隊自衛隊の組織として創設された戦略自衛隊。日本の海軍指揮下にある唯一の軍艦であり、兵隊やBC兵隊なども保有。その勢力は隣国軍をもしのぐと断言され、海軍制圧や海防作戦といった対人制圧の能力が高いと推測される。最終的に、その牙はNERV本部制圧に向けられ、まさに第18の使徒と7の要求といえよう。陸上兵器は戦艦所などの外部施設を遠くから破壊し、海軍艦のEVA式兵器が起動した際にはこれを回避し襲った。しかしながら使徒と同様に雷が立たず、航空部隊と共に襲撃されている。

●戦車



●戦甲車両



●ロケットランチャー



●ロケットランチャー (戦自仕様)



- 国連軍高官
- 国連軍
- 戦略自衛隊
- NERV



自衛隊幹部が国連軍の指揮を兼任している。兵隊の火力を過剰とするも、A.T.フィールドのまじに通常兵器は無力だった。

キャラクターシート

Character Sheet

NERVスタッフ

Sheet

22

STAFFS OF NERV

内外的活動にて 対使徒戦略を 支援する

貴重な組織要員



NERV

NERVスタッフ

STAFFS OF NERV

使徒と呼ばれる超科学的兵器群の調査、研究、捕獲、殲滅を目的とする国連直属の特務機関であるNERV。使徒殲滅が人類にとっての至上命題であるため、EVA専属操縦者や戦術作戦部の活躍ばかりが際立つが、その裏では特殊な組織の運営を円滑に行なうべく「作業員」「保安課補助員」をはじめとするさまざまなスタッフが精力的に活動している。しかし、NERVの内外において組織のために尽力した彼らの活動は、すべて使徒殲滅という「表向き」の目的達成のためだった。彼らの中に、組織の最高司令官、碇ゲンドウが押し進めていた「真の目的」を知る者は皆無だったと思われる。



使徒の調査や研究の現場、さらにはEVAおよび関連機材の調整や補修作業の現場など、さまざまな場所でその姿が見受けられる作業員。そして組織内外で種々の活動に従事している保安課幹部といった「スーツ組」の面々。彼らの堅実な仕事ぶりは間接的に対使徒戦略をサポートし、人類補充計画が発動されるまでNERVの活動を支え続けた。その顔ぶれを確認すると、どちらも比較的若い人材が現場の主戦力となっていることが見受けられる。これは他の部署でも確認できる、NERVという組織の大きな特徴のひとつといえるだろう。

ちなみにNERVには、確認できるだけでも戦術作戦部、技術開発部、特殊監察部、保安課幹部、整備部、広報部、統務部、管理部など多数の部署があり、組織の規模は非常に大きなものとなっているようだ。



初号機専属操縦者、総シンジを動かす作業員の面々。作業員は状況に応じて設備の活用が義務付けられる場合もあるようだ。ちなみに、作戦部など一部のスタッフ以外は、専属操縦者と接触する機会はずさ多くない。

追加報告

公的機関としてのNERV

その創設の経緯上、超法規的機関であるNERVは、一定感のある特殊機関NERV。特別な任務を遂行する機関といえ、国連直属の組織であるため、その存在は一応公になっており、一般人にもある程度認知されている。

しかし、NERV本部は東京23区地下、シネマランド(大深度地下空間)にあるため、一般人レベルではその実情が理解しづらいものとなっている。また、対使徒戦略の詳細に関しては、NERVの広報部をはじめとするさまざまな組織により情報操作がなされており、一般人はもろくも日本政府であるその存在に、強硬的な隠微しを向けていた。結果的に公的機関としてのNERVは「人類補完の切り札」でありながら、活動の経緯を徹底的に隠蔽している「情報の知れない組織」として認知されていたようだ。そのため、NERVは使徒だけでなく人間による陰謀に巻き込まれることもあった。ほとんどのNERVスタッフは一般人の顔ぶれを要する機会が少なく、広報部員や一部の警備員、保安課幹部といったスタッフはその限りではない。人員におおきながら裏方の活動は手帳以上に困難を極めたものと推測できる。



シンジを駆使して取り回された保安課幹部とほぼ同じNERV職員。後ろの車には、かなり自立した大きさのUN NERVとペイントされている。

NERV

国連



人類の敵である使徒の調査、研究、開発、機動を主目的とした国際直属の特殊機関。本部は日本の都府県東京市に存在する。

作業員たち



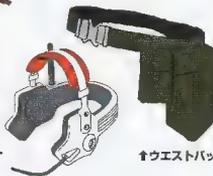
→NERVの文字が割まれたタグ付きのツナギに身を包んでいる作業員。なお、帽子をかぶっている者も多いが、備用の数珠はないようだ。

作業用タグ



→1 EVAの整備、使徒の調査などでその姿が確認できる作業員たち。各員の所属部署は不明だが、オペレーターと同様に、各部署から現場に召集されているとも考えられる。

→作業を円滑に行うため、作業員が状況に応じて装着する2点。なお、ヘッドセットはオペレーターのものと仕様が異なる。



→ヘッドセット

→ウエストバッグ

保安課幹部員たち



↑NERV内外で職務をこなす保安課幹部員たち。なかにはEVA推進連絡者の行動を監視する役目を担う責めがあるらしく、シンジが家を出た際や、記録を抹消された際にツナギとその姿を覆った。

→機元はNERVのバッジをつけている、スーツ姿の課幹部員。一部には、サングラスをかけている人員もいるようだ。

A.D.2015

●御殿場

02 シンジ、御殿場で足止めされる

そのころ、人の消えた御殿場の町に、ひとりたずむ少年の姿があった。砲シンジである。シンジは父に会うため第3新東京市へ向かうところだったが、使徒接近の影響で周辺の交通機関がストップしたため、途中で降参するハメになってしまったのだ。電話も不通で待ち合わせ相手と連絡も取れず、シンジは途方にくれる。



↑シンジは、離れて暮らしていた父、ゲンドウに呼び出され、数年ぶりに会いに行くところであった。



03 国連軍、使徒と交戦

第3新東京市街戦、勃発

轟音と共に、凄まじい衝撃波が街中を走りぬけた。なにごとかと振り返ったシンジの目前を、複数のVTOL機が横切っていく。国連軍の航空戦隊である。そして、そのあとを地雷雷を立って歩む異形の使徒。軍は使徒に対し、市街戦を開始したのだ。ビルの間を縫うように放たれたミサイルが、敵の身体に次々と着弾する。しかし、至近からの集中砲火を浴びたにもかかわらず、使徒はダメージを受けていないようにみえた。

振り返るシンジが見たものは、VTOL機の爆発を逃すように街中を進む、使徒の姿だった。



↑ほぼヒトと近い使徒の姿。胸には使徒の組織中核のコアがある。



生ずれて初めて見る使徒。目撃した瞬間に逃げたい衝動が、シンジの心臓を突き刺す。



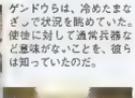
次々と撃ち落とされたミサイルが、使徒に向って飛んできて、全弾命中した。

A.D.2015

●強羅付近

05 国連軍 n²地雷を使用

NERV発令所では、国連軍の幹部たちが戦いの指揮を執っていた。だが、軍の総力攻撃も使徒の展開するA.T.フィールドに阻まれ、さしたる効果が見えない。やがて戦車大隊が壊滅し、航空隊でも侵攻阻止は不可能であるとなると、彼らはn²地雷の使用を決定する。それは強力な破壊力を有する最後の切り札だった。使徒の進行線上に仕掛けられた地雷は見事、目標を取らえ、激しい爆発が巻き起こった。

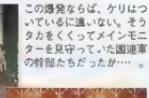


強羅軍は最後の切り札であるn²地雷を、使徒にぶつける。使徒は衝撃を受け、現場には巨大な穴と煙霧が立ち上った。



06 使徒、健在

これだけのすさまじい爆発にさらされれば、どのような生物であろうと、生き延びられるはずがない。軍幹部たちは勝利を確信し、湧き返る。だが、爆発の影響による電波障害からセンサーが回復すると、発令所内にて、オペレーターの声が響いた。「爆心地にエネルギー反応」主モニターに映し出されたもの……それは、爆心地に何事もなかったようにたずむ使徒の姿だった。



紅蓮の炎の中、厚かばかった使徒のシルエット。炸裂音ですら使徒を仕舞われなかったという事実にも、彼らは得閑となる。

A.D.2015

●NERV本部

07 作戦の指揮権が NERVに委譲

地雷は使徒に多少のダメージは負わせたものの、決定打といえるほどではなかった。しかも使徒は自己修復機能を有しているようであり、驚異的な学習能力で新たな能力を獲得し、己を強化していった。現在は修復作業により足が止まっているものの、再度侵攻は時間の問題である。ここここへ至って、国連軍は通常兵器による戦況を断念。対使徒の指揮権は、NERVに委譲された。



さしもの使徒もまったくの無傷とはいかなかったようだ。いくばくかの傷を負った使徒は、しばしの自己修復作業に入った。

勝つのかという戦況の無いだけに、ゲンドウは不意な笑みを浮かべる。ようやく、ついにNERVが動き出すときがきたのだ。



シンジ、御殿場で足止めされる



国連軍、使徒と交戦



使徒に損害を与えられず、逆に甚大な被害を受ける

シンジ、ミサトと遭遇

国連軍、n²地雷を使用

使徒の殲滅に失敗するが、足止めすることに成功

使徒殲滅作戦の指揮権が NERVに委譲される

●NERV本部

10 シンジ、
初号機の搭乗を拒否

シンジとろくな会話も交わさぬまま、ゲンドウはEVAの出撃を命じた。パイロットは負傷して動けないはずと驚くミサト。だが、すぐにシンジは気づいた。父が自分を呼んだのは、この人型兵器に乗せて、さきほど見た巨大生物と戦わせるためだったのだと、ショックを受けたシンジは、そんなことできるわけがないと叫ぶが、ゲンドウは、「乗らないならば、開れ」と冷たく言い放った。



見たこともない兵器に乗って、わけのわからない生き物と戦うなんて、自分にできるわけがない。拒絶するシンジだったが……

「逆シンジくん。あなたが乗るよ。リツコから告げられた言葉で、シンジは自分を呼び寄せたゲンドウの真意に気づかされる。

11 綾波レイ、出撃準備を始める

傷付いたパイロットの姿にシンジは驚く。かたくなに搭乗を拒絶するシンジを見て、ゲンドウは冬月にレイを起こすよう、新たな指令を出す。やはり自分は乗らない人間なのだ、うつむくシンジ。そこへ医療関係者と思しき人々が、あわただしく駆けこんで来た。彼らが押してきた担架には、プラグスーツを着た包帯だらけの少女……綾波レイが乗っていた。



ゲンドウの命令で運ばれてきた零号機のパイロット。それは、全身に包帯を巻かれた少女だった。

*包帯だらけで減身劇演と云った様子の子レイ。このケガは、零号機の起動実験の際に負ったものだ。



自身を産める準備に苦しみ、息を吐くたびに涙が流れてきたレイ。包帯を巻かれた少女は、包帯を脱ぎ捨てた。

明らかにならぬまま、包帯を巻かれていたレイは、包帯を脱ぎ捨てた。

14 シンジ、レイを助け起こす

シンジの目前に過酷な現実が迫り来る

大人たちの勧誘をよそに、シンジは初号機の手の下から抜け出し、レイのもとへ駆け寄った。担架から投げ出された彼女が、床へぐったりと倒れ伏したままなのに気づいたからだ。助け起こしたレイは、痛みとショックで、がたがたと震えていた。歯を食いしばり、かすかなうめき声をもらす痛々しい姿……。担架の落ちたときに再出血したのだろうか。彼女の身体を支える自分の手が、鮮血で赤く染まっていることに気づき、シンジは絶望となる。少女が搭乗できる状態でないのは明らかだった。



苦しむレイと初号機を交互に見るシンジ。こんな状態の彼女を、ゲンドウはあの兵器に乗せようというのだ。



シンジの手を赤く染めたままの。キレ、レイの傷から流れ出た鮮血。一筋血なみだり。



血にまみれた自分の手を離脱す。先走って、彼女の代り代りに出る。先走って、彼女の代り代りに出る。

15 シンジ、
初号機への搭乗を決意

自分がやらなければ、重傷を負っているレイが出撃しなくてはならない。そう思ったシンジは決意する。呪文のように繰り返してつぶやいた。「逃げちゃダメだ、逃げちゃダメだ、逃げちゃダメだ……」再び誓ったを聞いたとき、シンジの目には、強い意志が宿っていた。シンジはまっすぐに顔を上げ、ゲンドウたちにはっきりと告げる。自分が初号機に乗る、と。



シンジは自分の中の恐怖心を必死に抑えつけ、決意と共に顔を上げる。



自分が乗ると力強く宣言したシンジ。この瞬間をもって、彼はEVAの新たなパイロットとなったのである。

使徒、第3新東京市に接近
都市施設に攻撃を開始

ジオフロントにも
被害が及ぶ

初号機、
シンジの危機を救う

シンジ、レイの身を案じる

シンジ、初号機への
搭乗を決意する

タクティクスシート

actics Sheet

第4使徒シャムシエル戦

Sheet

06

THE FOURTH ANGEL SHAMSHIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by Takaya Ie

第4使徒シャムシエル戦

第4の使徒との戦闘と、
エヴァンゲリオンとの限界

ACTICS SHEET

15年ぶりに出現した使徒は、エヴァンゲリオン初号機（以下、EVA初号機）によって倒された。これにより、「サードインパクト」は未然に防がれた。しかし、この勝利は辛勝というほかになく、EVA初号機の暴走という事態がなければ状況はさらに悪化していたことは想像に難くない。また、この戦闘において、エヴァンゲリオンをはじめ第3新東京市の運用上の問題も明らかとなった。その問題とは、操縦者のEVA操縦技術の慣熟、そして第3新東京市の「対使徒迎撃要塞都市」としての運用性とEVAとの連携である。

使徒が第3新東京市を目指し、これに対抗可能な兵器がEVAしかない以上、EVAが配備された第3新東京市が戦いの最前線となることは避けられない。第3新東京市とEVAが使徒を「迎撃」するために作られたものである以上、基本的にはこのふたつが連携してこそ、それぞれが戦術的な効果を発揮するのである（もともと使徒の出現場所、出現周期などが判明しないため、「迎撃」という戦術を探らざるを得ない状況ではあるのだが）。そのため、EVAの操縦者には都市の各所に設置された「非常用電源」「予備の武装」「回収ルート」の効率的な運用を、第3新東京市にはそれらを円滑にEVAに供給することが求められたのである。だが、第3使徒侵攻時において、その連携は満足に機能できていた状態ではなかった。そのことから使徒との初戦を経験して、ようやくNERVは本格的な作戦を行なう準備段階に入ったといえるだろう。

第3使徒との戦闘から3週間後に確認された第4使徒との戦闘時には、両者の連携が機能するように盤石の体制が敷かれた。しかし、第3新東京市へと侵入した第4使徒をEVA初号機で迎撃つても、操縦者である碇シンジの練度の低さもあり、武装の破損、アンビカル・ケーブルの切断という事態において都市機能との連携は行なえず、ブログレシブ・ナイフによる突貫という無謀ともいえる戦術によって辛勝したというのが実状だ。このように第4使徒戦は、EVA、対使徒迎撃要塞都市＝第3新東京市とが真の意味で連携することが急務であることを物語っている。

RELATEDの関連記事はこちら

- 第4使徒シャムシエル
- EVA初号機
- 碇シンジ
- 第3新東京市



飛行能力とムチ状の腕を持つ使徒。EVA初号機に撃破され、初の使徒サンプルとして分析された。



本編的な体制で迎撃した第4使徒との戦いから、NERVの運用の不足が浮き彫りとなり、高度、強靱な都市の構築と運用

5分以内の戦闘

EVA初号機と第4使徒との戦闘はわずか数分で決着した。EVAと第3新東京市による初の本格的な使徒迎撃戦は、いくつかのアクシデントが発生したものの、使徒の退撃に成功している。

1 謎の飛行物体を確認、使徒と認定

海上を飛行する謎の飛行物体を確認したNERV本部では、これを第4の使徒と認定。第一種機動配置を取るとし、第3新東京市も観測形態へ移行した。初の本格的な対使徒戦が行なわれていた。



第4使徒の出現からわずか3週後のことである。

2 侵攻する使徒に攻撃を実施

第3新東京市に向かい移動を続ける使徒に対し、船体付近において山腹に隠設した「サイル」やロープウェイに偽装した銃塔による攻撃が実施されたが、使徒の侵攻を阻むことはできなかった。



運用兵器での攻撃はままに、「税金の無駄遣い」といった。

3 エヴァンゲリオン出撃。対使徒戦、開始

使徒の第3新東京市への到達に合わせた、EVA初号機が初撃地帯への到達後、即座に使徒へ射撃を実施するが効果はなく、さらに使徒の反撃により、バレットライフルを破壊されている。



武器の破壊後、予備の武器を駆使するよう指示されている。

4 アンビカル・ケーブル切断

武器を失ったことにより、EVA初号機は劣勢に立たされることとなった。建物を盾としながら、使徒の攻撃を回避しようとするが、アンビカル・ケーブルを切断されてしまう。この時点で活動時間は約5分しか残されていない。



ケーブルを切断し、使徒の攻撃に対し、初号機は劣勢を強いられる。

丘陵地帯



5 丘陵地帯での戦闘

使徒の攻撃を回避するEVA初号機であったが、敵の機手に捕縛されてしまう。そのまゝ、第3新東京市郊外の丘陵地帯に投げ込まれてしまった。EVA初号機が落下した元には避難所を設けようとする民間人の姿があった。



民間人は避難者である。シンジのクラスメイトである。

6 民間人の収容と、退却命令

倒れたままのEVA初号機に、使徒が迫る中、免命所の総長、サトウは民間人をエントリープラザに収容し、その後、一時退却するように命令した。EVA初号機が使徒の攻撃を素手で受け止めている間に、民間人はエントリープラザに収容された。



葛城、シンジは避難所である。これは間違いない。

第3新東京市

7 命令違反による戦闘の継続

退却命令を無視した総長シンジは、プロトタイプナイフを装備した使徒への攻撃を開始した。EVA初号機にはわずかな活動時間しか残されていない。この攻撃は目撃されることになった。しかし、制限時間ぎりぎりまで使徒の攻撃を継続、機体を停止させた。

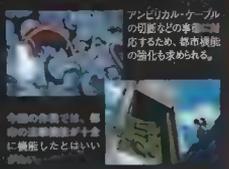


初号機も使徒の機手に機体を貫かれていた。

作戦報告

使徒迎撃戦の展開と、民間人の収容

「アンビカル・ケーブルの切断」民間人の収容」という不利の事象がなければ、今回の作戦は訓練通りといって成果を挙げられたはずである。「アンビカル・ケーブルの切断」についても、第3新東京市各所にある非常用電源を使用すれば、それほど大きな問題とはならない。しかし、民間人という不確定要素——今回、民間人が避難所を抜け出した理由は「エヴァンゲリオンが見たかったから」——については、避難所の監視体制の強化などの対応を講じる必要がある。また、今後の使徒迎撃戦を考えた場合、EVA初号機探索者の異なる情報とEVA初号機の早期の実験配備が必要であることはいうまでもない。



今回の作戦では、最初の迎撃戦がすべてに備わったとはいえない。

技術調査

物の使徒サンプルの入手と、その分析結果

今回の戦闘における一筋の成金は、使徒のサンプルが入手できたことである。使徒のサンプルを分析した結果、「使徒は電子と生物の性質を持つようなものでも構成されている」「人の遺伝子と動物の遺伝子」ということが判明され、それ以外は無関係とされている。今後の分析によっては、さらなる事実が判明する可能性もある。



「赤板」ともいえる「コア」は破壊されていたが、その残骸のパーツは回収し、分析を継続していた。



分析の結果、サンプルの入手に、重要な役割を果たしている。

ジオフロント

発見および開発の経緯とその概要

未曾有の大災害セカンドインパクトが世界各地を逼迫させていた西暦2003年、第1次運都計画により第2新東京市が完成するなど復興の途上であった日本において、ある遺跡が発見された。裏死海文書の記述をもとに秘密結社ゼーレの息のかかった調査隊が探索を行なった結果、箱根方面富士山麓の地下深くに、ほぼ球状の巨大空洞の存在が確認されたのである。土砂の堆積によりそのほとんどが埋没していたものの、明らかに人為的なものであったこの巨大空洞は、奇しくも同じ裏死海文書の記述をもとに発見された南極の球状空間に酷似していた。

発見当初、ゼーレを中心に独自の調査が行なわれていたと考えられるこの地下空間は、意外なかたちで日本の中枢に位置することとなる。国連主導による第3新東京市開発計画——2005年に承認された第2次運都計画と連動し、「迎撃要塞都市」と呼称される第3新東京市の地下空間都市「ジオフロント」としての建造計画が開始されたのだ。一般的にジオフロントと呼ばれる都市空間は、居住空間、物流基地空間、エネルギー蓄蓄空間、廃棄物処理空間などに利用する地下空間を指す。しかし、第3新東京市のジオフロントについては、そのいずれもが当てはまらない特別なケースである。その理由は、地下空間のほとんどが超法規的武装集団、特務機関NERV関連施設の建造地にあてられたためだ。第3新東京市に林立する高層ビルを格納できるという特徴的な機構こそ有しているものの、ジオフロントはNERVという一組織のためだけに用意された空間といっても過言ではない。さらに、第2次運都計画が富士山麓の地下空間発見後に発案、承認されたことから考えると、第3新東京市以上に重要視されているとも思われる。ジオフロント自体の特異性が浮き彫りになってくる。

ちなみにNERVという組織の設立自体は2010年とされていることから考えると、ジオフロントの建造計画は、あらかじめNERV設立を視野に入れたものであり、彼ら（及び彼らが保有する「何か」）を納めるための誘導りであったとも考えられる。他の地域の復興に先立って、急ピッチで建設作業が進められた迎撃要塞都市。その地下空間、ジオフロントに建造された国連直属の特務機関NERV。そして、予定されていたかのように、第3新東京市（あるいはNERV本部）に向かって侵襲してきた正体不明の巨大物体——使徒——。これらの事象は予め予定されていたかのように連動しているが、その真実を知る者は裏死海文書の存在を知る一握りの人物のみと推察される。

- 第3新東京市
- NERV
- ゼーレ
- セカンドインパクト



第2次運都計画により、第3新東京市が完成した。迎撃要塞都市の建設を主目的とする。



第2次選都計画下における ジオフロント建造の目的

前述したようにジオフロントの建造は、第2次選都計画と連動するかたちで進められた。とはいえ、都市としての第3新東京市の規模が小さかったため、同計画は「実際に首都移転を視野に入れたものなのか」と疑問視されていた。これが承認されたのは国連の意向によるところが大きく、建造が進められた第3新東京市及びジオフロントは日本政府ではなく国連の直轄地となり、その権限は国連直属の特務機関NERVに一任されることとなる――。

そして、最終的にこのジオフロント建造にまつわる一連の流れは、2015年に否応なく突きつけられる「対使徒戦略」という命題へとつながっていく。結果として第3新東京市は使徒迎撃のための要塞、ジオフロントは唯一使徒に対抗しうる汎用型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンを要するNERVの本拠地として活用されることとなる。その特異な都市機能全体を見る限り、第2次選都計画はあくまで「対使徒戦略」を視野に入れた計画であり、ジオフロント（及びNERV本部）建造のための隠れ裏だったと考えるのが妥当であろう。

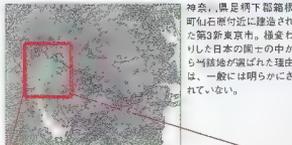
ジオフロントの 建造場所

西暦2000年に発生した未曾有の大災害「セカンドインパクト」の影響も海面が一丈も上昇したため、日本の海抜ゼロ地帯は完全に海面下に没し、多くの都市が「間もなくの移動を余儀なくされた。第3新東京市はそういった地形変動の影響もあって、富士山麓にはと近い、神奈川（東部芦ノ湖付近）に築工。その大深度地下がジオフロントの建造場所となった。ただし、当該地にはすでに巨大な地下空間の存在が確認されていたため、実質的なジオフロントの建造作業は、この空間を利用する形で進められることとなった。

なお、のちにNERVへと移行する調査総局ゲルゲルの前身であった人工進化研究所は、箱根の芦ノ湖周辺に建造されていた。ジオフロントにNERV本部が建造された経緯としては、少なくともこの国連関連施設の所在が影響したものと推察されるが、その真相は不明である。



大深度にありながら、地上と見まがうほどの景観を持つ地下空間。地上にある光ファイバーにより太陽光を送り込んでおり、地上とはほぼ同様の明るさを保つことが可能である。



神奈川県厚木市藤根町石臼町付近に建造された第3新東京市。極東でありながら日本列島の中核に位置する理由は、一般には明らかになっていない。



近代的な高層ビルが林立する都市部の真下に、巨大なジオフロントが広がっている。使徒襲来時は地上が主戦場となるため、ほとんどの建造物が地下に格納され、ジオフロント上部が「天井都市」と化す。

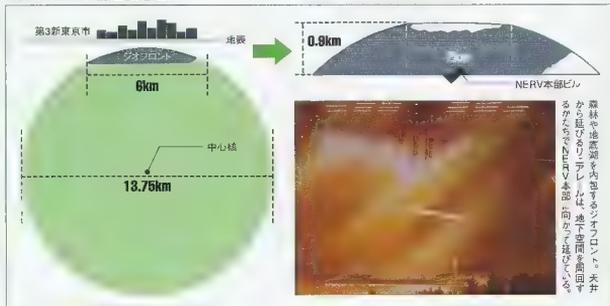
ジオフロントの 構造

第3新東京市地下に建造されたジオフロントと、その中心部に位置するNERV本部。それらの繋がりを対使徒使徒戦という観点から見ると、その構造的特異性と意図がうかがえる。

第3新東京市直下の巨大空洞（直径17.75kmの球状空間）には土砂が堆積しており、実質的には直径6km、高さ0.9kmの半球型の空間がジオフロントとして活用されている。なお、対使徒戦略の中核であるNERV本部は、このジオフロント底

部に建造されている。ちなみに第3新東京市に襲来する使徒は、一説によればNERV本部を目標しているとも言われており、ジオフロントを含む第3新東京市全体の三次元的構造は、NERV本部にとって強固な防空壁の役割を果たしている。

●ジオフロント構造概念図



●天井ビル底部



22層の特設装甲壁に守られているジオフロントだが、それが破られた場合は天井ビルが落下してくるという危険性も孕んでいる。

特記事項

ジオフロントへの入り方

・大深度空間であるジオフロントへの進入には正面ゲート（からモジュールへの挿入）やカートレインが利用されている。ただし、ジオフロントへの出入は基本的にNERV関係者に限られており、つばに厳重な防犯体制が敷かれている。なお、正面ゲートやカートレインが利用できない場合は「非常用通路」が利用されることもあるようだが、その詳しい構造は未詳である。

●正面ゲート



通路は正面ゲートへ向かうため、モジュールでNERV本部へ向かう。なお、通行時に必要となるIDカードは、ハッキング防止のために不揮発性メモリーで記録されている。

●カートレイン



第3新東京市地下とNERV本部を結ぶ、乗用車、乗客専用カートを利用する。緊急時のみのみ、複数のカートや乗客が乗るようだが、その詳細は不明である。

●非常用通路



電源の供給が停止した場合に使用される。緊急時のみのみ、複数のカートや乗客が乗るようだが、その詳細は不明である。

テクノロジーシート

Technology Sheet

プログレッシブ・ナイフ

Sheet

08

PROGRESSIVE KNIFE

Illustration by Takuya Ito

プログレッシブ・ナイフ

PROGRESSIVE KNIFE

使徒の殲滅を目的として建造されたエヴァンゲリオンには多種多様な兵器が用意されている。なかでも主兵器として多用され、使徒にとどめを刺すのに用いられるのが「プログレッシブ・ナイフ(プログ・ナイフ)」と呼ばれる近接格闘用兵器である。だがここでひとつの疑問が生じる。なぜ刀身が短く、EVAの腕の延長でしかないプログレッシブ・ナイフが多用されるのだろう。同じ攻撃を加えるなら射程が長く、火力も高い射撃兵器のほうが有利なものではないか。事実、NERV開発局ではバレットライフルやボジトロンライフルといったEVA専用銃火器がいくつも開発されている。だが、これら銃火器は主に初期率制用に利用され、使徒を機能停止させしめるのに用いられるのはプログレッシブ・ナイフなのである。では、この近接格闘兵器が特別視される理由は何なのか——それを知るためには、使徒とEVAが有する特殊能力に言及しなければならぬ。

使徒が「完全無欠の単独兵器」と呼称された理由としては圧倒的な攻撃力や驚異的な回復力が挙げられるが、最大の要因はその絶対的な防御力にあるといえよう。特に使徒が自らの周囲に展開する不可侵領域——A.T.フィールド(Absolute Terror Field)はある種の位相空間を構成するもので、現用兵器ではその位相空間の突破は極めて困難しいといわざるを得ない(国連軍の切り札であるn地雷も、使徒の外装を溶解せしめただけに留まっている)。A.T.フィールドを破れるのはA.T.フィールドだけであり、ふたつのA.T.フィールドの位相差を同調、中和することでA.T.フィールドは無効化され、使徒に直接攻撃を加えられるようになるのである。使徒と同じA.T.フィールドを展開できるEVAが使徒との戦いに投入されたのにはこのような理由がある。ただしA.T.フィールドの展開可能範囲には限界があるため、使徒のフィールドを中和するにはEVAが使徒に接近する必要がある。つまり銃火器を使った長距離射撃ではA.T.フィールドは中和できず、使徒との戦闘は自ずと接近戦が中心となる。そのため近接格闘兵器が必要となり、以上のような理由からプログレッシブ・ナイフがEVAの主兵器として採用されたのだ。何体もの使徒がプログレッシブ・ナイフに切り殺されたことから、本兵器の威力は明らかであろう。

RELATED MATTERS

- A.T.フィールド
- エヴァンゲリオン
- エヴァンゲリオンと使徒



EVAと使徒が展開する位相空間「絶対恐怖領域」の壁と中和され、外部からの物理的な攻撃に対しては壁の防御を破る



人間用のスケールシステム

形状と収納方法

プログレッシブ・ナイフの形状を想像する際には、人間の持つナイフを思い浮かべるといい。それをそのままEVAのサイズにまでスケールアップすればいいのだが、それほどまでに本兵装の外観はナイフ然としている。そして通常はEVAの左肩装甲内に収納され、必要に応じて取り出されるが、専用の鞘に入れて持ち運ばれることもある。さらにベルトで臀部に取り付けられたこともあった。



遠隔山火口に突入する際にD型装置を装着したEVA式兵装は、その背中にプログレッシブ・ナイフを取り出せるための足の外側にナイフを外付けしている。

分子間結合力を切断する超高速振動の特長

構造と原理

いくらプログレッシブ・ナイフが鋭く研がれていたとしても、それだけで使徒を構成する物質を切り裂けるものではない。特に使徒の機能中枢であるコアは極めて頑強な構造をなしており、力任せにナイフを突き立てても弾かれてしまう可能性が高い。そこでプログレッシブ・ナイフは貫通力を増すためにブレード部分に高振動粒子を採用している。これは外部からエネルギーが加わると超高速で自動運動を行なうという特殊粒子で、接触した物質の分子間結合力に直接作用し、その結合力を無効化してしまうのである。そのため理論上はあらゆる物質を切り裂くことができ、使徒を構成する物質にも有効とされた。そしてその効果は実験で見事に証明されている。

振動粒子が運動をはじめるとブレードが強い光を発する。粒子の自動運動が目に触れる形で現れやすい現象である。



ブレードが振動と接触すると、美しい火花を散らして物質の構成要素を分解し、同時に、最終的に破壊することになる。

海中やマグマの中といった特殊環境でも高振動粒子の効果が発揮することなく、攻撃範囲の狭さを補償し下げ、極端に異常な長銃といえる。



PK-01

EVA零号機および初号機に搭載されたタイプで、初期型に当たる。ブレード部分と柄部分が一体的に成形されており、耐久性に優れるのが特徴。その反面、ブレードが破損すると使用不能になってしまうため、その耐用性が望まれていた。

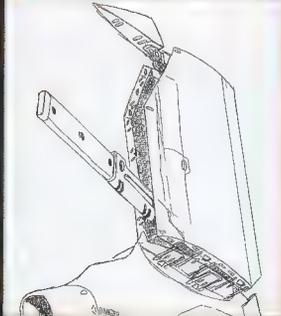


PK-02

EVA式号機に搭載されたタイプで、PK-01の改良型といえる。最大の特徴はブレードを鞘の中に格納できることで、必要に応じてブレードの長さを調整して使用することができる。さらにブレードが破損した場合、切っ先を折り取ることで再使用が可能となる。



収納方法



PK-01、02共に収納方法は共通であり、EVAの左肩装甲内に納められている。使用時には肩部分装甲が左右に開き、上部パーツが隆起すると同時に鞘部分が飛び出てくる。あとはEVAが自らの腕でナイフを取り出すことで使用可能となる。

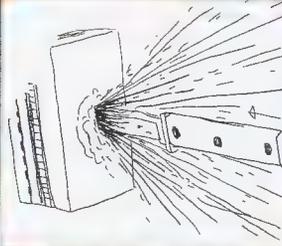
基本的な構造

ブレード部分 ①
エネルギーが加わるとこの部分が高速運動を開始する。ブレードを軸線とし、熱エネルギーで構造的に溶解するのではなく、振動を介して構造的構成要素に直接エネルギーを送り込み、分子レベルでの破壊を行なう。

柄部分 ②
ブレードを駆動するために必要な電力が内蔵されていると思われる。また突発的な振動動作を防ぐために、EVAが握った時だけに電力供給が行なわれるような感圧式のスイッチも設置されているようだ。

EVAの手と比較すると、プログレッシブ・ナイフのサイズが想像しやすいだろう。ブレードの長さもほぼ同じで、攻撃範囲が極めて短いという特徴も見て取れる。

目標を破壊する原理



高振動粒子による破壊
プログレッシブ・ナイフの破壊力の大部分は高振動粒子に依存している。この粒子が発生する振動エネルギーが構造的な分子間結合力に直接作用する。

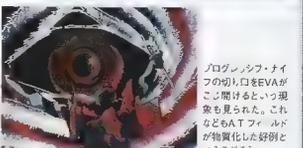
熱エネルギーによる追加効果
高振動粒子による振動エネルギーの一部は熱エネルギーに変換され、ブレードを熱すると同時に構造的な溶解するのにも利用され、破壊力をさらに向上させる。

エヴァ自身の力を用いた追加効果
上記した二つの力に加え、プログレッシブ・ナイフを押し出したEVAの腕の破壊力方向に射撃方向によって、特にこの力は構造的な溶解するのに重要とされている。

特記事項

A.T.フィールドとプログ・ナイフ

時として、あたかもプログレッシブ・ナイフ(A.T.フィールド)を切り裂いたような現象が見受けられることがある。とはいえ「破壊」をプログレッシブ・ナイフで切り裂けるはずはなく、これは極度に強化されたA.T.フィールドが物質化したことを示す現象ではないかと推測される。実際にA.T.フィールドは「生命体生物の形状を決定する、外的因子」と言われ、その際において、は「プログレッシブ・ナイフ」が効果を発揮したとしても不思議はないだろう。



裏死海文書

ゼーレが活動計画の指針としているらしきもの。使徒の存在と隕来体、サードンパクトの発生、ロンギヌスの楯などについて記載されているとされ、預言書の類だと推測される。なお、死海文書とは、イスラエルの湖である死海周辺の洞窟群から見つかった写本の総称を指す。聖書とその他の典、偽典を記した現存する最古の写本であり、ヘブライ語、アラム語、ギリシア語で書かれている。

CATEGORY

え

Glossary

Air

第26話（旧劇場版）のサブタイトル。英文タイトルは「Love is destructive.」、意味は「愛は破壊的だ」。唯一のアルファベット表記サブタイトル。なお、「Air」は空、大気、空気のほか態度、旋律といった意味も持つ。

EVAシリーズ

EVA5-13号機の9体。量産機を経た名称。量産計画は非公式に違われ、世界7ヶ所にて建造が行われた。5、6号機はドイツで、8号機は中国で造られた。建造情報は日向マコトが上海経由で得たもの。



EVAシリーズは、機体とダミープラグが同じ仕様で統一された量産機。集団で発号機を誘導、継ぎ足した。

EVA専用改造陽電子砲

(ネルフ仕様 もと戦自研自走陽電子砲)

戦略自衛隊つくば技術研究本部の試作自走陽電子砲をNERV技術開発部第3課の手で改造した。大出力のボルトコリナライフル。ヤシマ作戦において、第5使徒ラミエルのA.T.フィールドを貫くために、初号機によって使用された。1億8千万kWものエネルギー量を放つのに耐えうる構造を持つが、砲身の冷却に用いる多数の冷却機と、日本中の電力を集中する大の変圧器・閉閉開閉装置が必要。最終段階の電力はケーブルにまとまらないため、1/1000秒のバルスに変換され、電光石火によって送られる。急造のためか銃身とラジエーター、円環状加速部に無限軌道があり、自走陽電子砲の名義を持つ。なお、第3拾式試作の第15使徒アラエル戦において、さらなる改良を加えたスーパーボルトコリナライフルを零号機が使用している。



EVA専用耐熱光波防衛兵器 (急造仕様)

SSTOの超電磁コーティングされた機体底部を流用して急造された盾。赤木リツコが「原始的だけど有効な防御手段」と称した近代兵器であり、第5使徒ラミエルの加粒子砲を防ぐ手段として用意された。耐久性能に関してはNERV技術開発部第2課の保証書付で、加粒子砲を17秒防ぎうる能力がある。しかし、耐久限界を越えたと同時に零号機の外殻と共に融解し、初号機を守るといふ役目を果たす。



EVA全身をカバーする大砲。駆き空が無失速に駆けつける。

EVA専用輸送台

アンピリカル・ブリッジを参照。

EVA専用陽電子砲

(円環加速式試作20型)

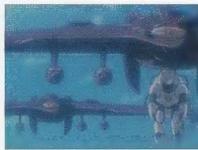
EVA専用のボルトコリナライフル。本体はカーボンフレーム、銃身はフレキシブル材で構成されている。出力があるため胸部に誘え、片手でグリップを持って撃つ仕組みになっている。なお、第3拾式試作の第15使徒アラエル戦において、本体上部に望遠スコープが装着された改良型を零号機が用いている。



ヤシマ作戦では出力不足のため使用されなかったが、イスラエル戦で試号機が適用している。

EVA長距離輸送機

EVAを輸送するための大型全翼機。切り離し式の大形ロケットブースターを8機使用したSTOL (Short Take Off and Landing) 機能を持ち、短距離滑走で離陸できる。EVA各機に専用の輸送機があり、カーゴ部分にEVAをロケットボルトで固定した状態で飛び出す。その際に、収容したEVAを空中で切り離し、目標地点へと降下させることも可能。なお、EVA量産機は収容の仕方が異なり、頭部、胴部、下半身が埋め込まれるようにして収容され、空中で切り離しを行う。



輸送の際はEVA両側にあるカーゴポートで固定するが、特殊装備で固定不可能な場合、吊り下げた状態で輸送される。

エヴァンゲリオン

使徒に抗し得る手段としてNERVが建造、運用する汎用人類決戦兵器。その開発には14年の歳月と天文的な費用が投入された。人類のもてるテクノロジーの粋を結集した兵器だが、それゆえ起動の確率は0.000000001%と極めて低く、[0]が9つあることから09 (オーナイン) システムと揶揄されている。人間が造ったというふれこみながら、EVAは未知の部分をも多分に持つ。その開発過程において研究者の消失、精神疾患などの事故が発生したともいわれているが、真相は定かではない。人型という構造上、および人間がどれか行動はほぼ可能であり、高度な作戦遂行能力を持つ兵器といえる。人造人間と称される素体は遺伝子工学による生体部品らしきもので造られているが、その詳細は不明。通常はこの素体に1万2千枚もの装甲を纏った状態で運用される。この外殻は拘束具であり、EVA本来の力を抑えるために施されたものだという。実際、「暴走」と呼ばれる、種個不能状態からの再起動と自律制御が度々発生している。主な武装は格闘武器と銃火器。そのほかオプション兵装を持つ。外部に動力を持ち、有線の電力供給によって稼働するが、内部電源で活動できる時間は最大でも5分程度しかない。ただし、EVAの主戦機である第3新東東京市には多数の電圧ビルが設置されており、電源車で活動できるという基本的には活動場所を選ばない汎用性を持つ。操縦には、各EVAへの適正を持つ14歳の少女が必要となる。操縦者はA"神経をもってEVAと神経接続し、インターフェイス・ヘッドセットとブラウスーツ等を介した思考伝達によって操縦する。このシステムゆえの問題か、操縦者の精神汚染という危険が付きまとう。また、精密動作にはインダクション・モードと呼ばれるコンピュータ補助の成された手動操作で対応可能。基本的には思考と手動のみかつのモードを使い分けて操縦する仕組みになっている。これらEVAの制動系には、MAGIに用いられている人格移植OSも流用されているらしい。のちに操縦者が必要としないダミーシステムが実用化され、5-13号機の量産型はこのシステムにより活動していると考えられる。EVAが使徒と戦える唯一無二の兵器と呼ばれる所以は、A.T.フィールドの展開と中和能力を持ったためである。この能力と胸部にあるコアの存在など、EVAは使徒と同等か近いものと推測できる。なお、EVAは使徒の機殻のために生み出されただけではなく、人類補完計画にとって不可欠な存在でもあるらしい。



エヴァンゲリオンはE計画による産物とされ、アダムと称される存在のコピーだとされている。

エクストラシート xtra Sheet

エヴァンゲリオン3号機

アメリカで建造された黒色のEVA。試写機と同様のプロダクションモデルであり、顔面は初号機の流れを汲んだ双眼の光学センサーを備えている。連絡機はフォースチルドレンとして見出された鈴原トウジ。アメリカのNERV第2支部消失後は日本へ移送され、松代にて起動実験が行なわれた。その際に、寄生していた第13使徒/バルディエルが活動を再開し、機体に乗っ取られてしまう。その結果、ダム・インシステムを起動した初号機により使徒として処理された。



3号機はアメリカから日本へ輸送される途中で、第13使徒バルディエルに寄生されたものと思われる。

エヴァンゲリオン3号機起動実験

EVA3号機の調整および起動実験。松代にある第2実験場で行なわれた。ダム・インブラグでの実験は危険と判断した赤木リツコは、フォースチルドレンを救出、鈴原トウジを用いて実験を行う。3号機は地下の無人施設ケイジに保留され、実験の総合制御地点は地上の中央指揮控室内で行なわれる。3号機と操縦者のシンクロは順調に進んでいたが、絶対境界線を突破した直後に異常が発生。寄生していた第13使徒バルディエルに3号機が乗っ取られ、実験場は大爆発を起こす。その結果、実験の指揮を執っていた葛城ミサトは左腕を負傷、赤木リツコは頭部に軽傷を負った。



3号機がアメリカで建造されたため、米国家部のスタッフをメインにして実験が行なわれた。

エヴァンゲリオン初号機

紫の機体色を持つEVAのテストタイプ。専属操縦者はサードチルドレンゲルシム。標準装備として、左肩にプログレップ・ナイフPK-01を持つ。起動の成功、および実験に投入された初のEVAであり、使徒との戦いでいまだ効果も上げている。また、活動不能の状態が起動し、暴走と呼ばれる状態を引き起こす。その際にバルディエルを捕獲し、S2機関を取り入れたことで無限の動力を手に入れた。その後、総指揮官の指示で凍結されるが、第16使徒バルディエルが復活した。すべての使徒を凍滅したあとはサードインパクト発生後交代となり、最後はコンギンスの機と共に宇宙空間を漂着する。なお、キール・ロレンツが「陽一・リリスの分身」と初号機を称しており、EVAの中でリリスから産まれたと考えられるが、真相は定まっていない。また、

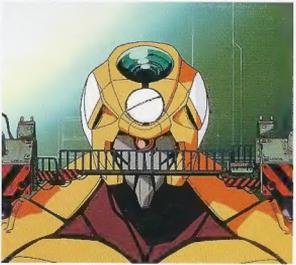
接触実験により錠エウイが取り込まれたコアが仕われているとも言われ、暴走と何らかの関係があると推測される。第3使徒サキエル、第4使徒シャムシエル、第5使徒ファミエル、第7使徒イスラフェル、第9使徒マトリエル、第12使徒リゼル、第13使徒/バルディエル、第14使徒ゼルエル、第17使徒タリスを凍滅し（暴走、共同作戦含む）、対使徒戦において重要な役割を果たした。



驚異的な動力を発揮する暴走は、すべて操縦者の認知が絶対生命の危機に陥った際に見現している。

エヴァンゲリオン零号機

山吹色の機体色を持つEVAのプロトタイプ。専属操縦者はファーストチルドレン綾波レイ。最初の起動実験で暴走し、特殊ペークリットによって凍結されていた。2度目の起動実験は成功し、すぐさま第5使徒ラムリエル戦（通称ヤマ作戦）に投入される。その際にEVA専用耐熱光防御兵器を用いてディフェンスを担当。初号機の盾となつてラムリエルの加粒子砲を浴びた結果、装甲が融解してしまふ。その後はプロダクションモデルの装甲に換装され、機体カラーも青へと塗り替えられ再就役を果たす。



光学モニターは単眼。顔面の多重レンズ部分は電磁波アンテナになっている。

エヴァンゲリオン零号機・改

プロダクションモデルの装甲に換装した零号機。その際、機体色が青に変更された。左肩に内蔵されたプログレップ・ナイフは、初号機と同タイプのPK-01。再就役後は第9使徒マトリエルと第10使徒サウワールの戦いでハイアストを初め、第13使徒/バルディエルと第14使徒ゼルエルには敗北、第15使徒アラエルをコンギンスの機を用いて凍滅している。第16使徒アルミサセルとの戦いで自爆し、機体は完全に破壊された。その後、塗装は抹消されている。



再就役した零号機は、銃火器を用いて遠距離からのバックアップを担うことが多かった。

エヴァンゲリオン貳号機

赤の機体色を持つEVAのプロダクションモデル。専属操縦者はセカドチルドレン惣流・アスカ・ラングレー。設計と部品の製造は日本で行なわれ、建造と起動実験はドイツで成された。左肩には改良型のプログレップ・ナイフであるPK-02を標準装備。制式モデルのため幅広い拡張性を持ち、零号機や初号機には規格外で装備不可能なD型装備などのオプション類を使用できる。なお、試写機に搭載されているコアに関しては、アスカの母、惣流・キョウコ・ツェペリングが精神障害を療う要因となった接触実験があったとされているが、推測の域は出ない。ただ、戦略自衛隊襲撃時において、アスカが試写機から母性を感じ取ったのは事実と思われる。ドイツから日本の移送中に第5使徒ガギエルに遭遇し、初戦闘でありながらEVA初の水の中戦に勝利した。以後は第7使徒イスラフェル、第8使徒サナルドフォン、第10使徒サハビエルを凍滅（共同作戦含む）、第9使徒マトリエル戦ではディフェンスを担当し、第13使徒バルディエル、第14使徒ゼルエル、第15使徒アラエルに相次いで敗北した。その後、シンクロ率が低下したアスカは試写機を降ろされたため、搭乗者不在のまま第17使徒タリスによって壊れた末、初号機によって倒される。戦略自衛隊の襲撃においてEVA本身の力を発現することも、ゼーレが投入したEVAシリーズに凍滅されてしまふ。



顔面には4つの補助光学カメラと電磁波センサーを持ち、両と胸部に改良が加えられている。

エヴァンゲリオン4号機

3号機と同様にアメリカで建造されていたEVA。修復されたS2機関搭載実験の過程で起きた何らかの原因により、第2支部ごと消失してしまふ。なお、3号機と同様プロダクションモデルで、機体色は白銀だったと言われている。

E

エクストラシート
xtra Sheet

エヴァンゲリオン量産機

S機関を搭載したEVAのマスプロダクションモデル。通称EVAシリーズであり、指揮機はゼーレが獨る。機体は白で、5〜13号機までの9体すべてが同タイプの機体と装備を保持。ハ虫眼を思わせる顔面フォームを持ち、背部にある格納式の翼で飛行可能である。諸刃の大剣＝ロングヌスの植のレプリカを装備し、ハードポイントを兼ねた両肩のマルチプル・ウェポン・ベイは持たない。適格した操縦者が必要なく、起動にはダメージシステムが用いられる。そのプラグには「KAWORU」の表記があり、フィオチルレン清カルのパーソナルデータが移植されているものと思われる。驚異的な再生能力を持ち、捕食行為など覚醒した初号機に近い原始的な行動を見せる。NERV本部の制圧に投入され、試号機を蹂躞したのち、初号機を依代としてサードインパクトを発生させた。その際リソースを同一化したEVAシリーズは、自らのコアにロングヌスの種のレプリカを突き入れ、それを契機に全人類の補充が始まる。最後は初号機の手によってコアを破壊され、物言わぬオブジェクトとして地上へ墜り立った。



S機関を解放し、アンチA.T.フィールドを発生させる量産機。使徒がすべて破壊された後、サードインパクトによる人類補完計画のために植えられたEVAと考えられる。

ACレコーダー

EVAの機体内にあるデータ記録装置。機体が稼働しているあいだ、時間軸に沿って自動的に操縦者の状況を記録する。外部からのデータ観測では知り得ない情報を記録しているため、機体破壊時などの原因究明に役立つ。初号機が第12使徒レリールの虚数空間に囚われた際は作動していなかったらしい。なお、同様の装置には飛行機に搭載されたフライトレコーダーなどがある。

A-17

羽化前の使徒が浅間山火口で発見された際の非常発令。葛城ミサトが要請、碓ゲンドウが人類補完委員会の承認を得て正式に実行される。発令の内容は使徒の捕獲作戦であり、それに伴い現資産の凍結も含まれているが、「現資産」が何を指すかは不明。なお、作戦が失敗した場合、pプログラムで使徒を熱処理（NERVスタッフごと）する予定であった。



A-17に付随する「現資産の凍結」は、日本の要人などの資産家として登録されているものだけを見え、政府関係者らと人々に対して「[さそ]の強制のことだよ」と、加特リョウジがさそがいている。

A.T.フィールド

「Absolute Terror Field」の略。直訳では「絶対恐怖領域」となる。位相空間を発生させて、物理攻撃を中和するフィールドだと考えられる。使徒とEVAだけが物理的に影響を及ぼすもののフィールド展開ができ、それを破るには同様の能力をもつて中和する必要がある。強固な防御能力を誇るA.T.フィールドは、人類の保有する通常兵器をほぼ無効化してしまふ。ただし完全無効ではなく、1億6千万kWのエネルギー量をもって、第5使徒ラミエルのA.T.フィールドを貫いた例もある。なお、第12使徒レリールは虚数空間の発生と維持に、第15使徒アラエルは可視波長のエネルギー波としてA.T.フィールドを用いており、物理障壁以外の用途も可能だと示す。また、試号機は攻撃的な壁として、戦艦自衛隊の重戦艦機に用いていた。発生の原理は不明だが、A.T.フィールドとは人間の誰もが持つ自我、「心の壁」であり、それによって個々の形を保っていると言われている。



暴走した初号機は、中和というよりも濃食に見る形で使徒のA.T.フィールドを引き裂いた。

A⁰神経

EVAと操縦者を接続する脳内神経の中で、最も重要な役割を持つ。A⁰神経は、脳幹の左右外側にあるA系列の神経核で、快楽物質であるドーパミンを分泌する。なお、精神系を結ぶ唯一の神経系統とされ、感情の動きに関与していると言われている。また、A⁰神経には分泌量を抑えるレセプターがないためアレルギーが過剰に分泌されやすい。その結果、精神疾患を招く場合がある。

A-7

第3新東京市にあるカートレイ発着駅のひとつ。山嶺にあるトンネル内に入り口が設けられている。



入り口には身分確認用のセキュリティシステムがあり、内部と外部の気圧p構定になっている。

A-8

MAGIシステムの定期検診時に、伊吹マヤの作業を見て赤木リツコが示した、早い早い手順書を目指す。



効果の早い手順書を指示しただけではなく、代わりに入力するリツコのスピードに感嘆するマヤ。

A-801

特務機関NERVの特例による法的保護の破棄、および指揮機の日本政府への委譲を表すコードナンバー。第2東京からNERV本部へ向けに発令された。碓ゲンドウはこれを受け入れ拒絶したため、MAGIのハッキングに次ぎ、戦艦自衛隊が直接占拠に動く結果となる。



A-801の発令と共に、松代、ドイツ、米国、中国にある各MAGIタイプが本部へのハッキングを開始した。

エクタ64

3号機を移送したEVA長距離輸送機のコードネーム。第8話において管制塔とのやり取りに使われた。航路上にある横瓦釜をネオバV400に報告、気圧状態は問題ないと判断されて航路変更は認められず、到着時間を遵守するよう要請される。結局、松代は2時間遅れて到着した。

エージェンションカバー

エントリープラグの上部カバー。非常用の出入り口として機能する。側面の外部開閉レバーには、メインスライドカバーとエージェンションカバーのスイッチがあり、緊急時は外からも開くことが可能。なお、プロトタイプではメインスライドカバーが存在せず、エージェンションカバーが組み込まれていない。そのため、非常時は外から力でも開ける非常モードを用いる。



エージェンションカバーを持たない等号機にとって、非常ハッチのみが操縦者救出の生命線となる。

SSTO

「Single Stage To Orbit」の略。切り離し式のブースターなどを使わずに、シャトル単体で成層圏への往復が可能な単段式宇宙旅客機のこと。第七話において、会議に向かうため碓ゲンドウが使用している。なお、機体底部のパーツはEVA専用耐熱光防御兵器として流用され、ヤシマ作戦での盾として等号機が使用した。



長距離の移動手段として、
国連軍の関係者が利用し
ていると考えられる。

SDATウォークマン

磁シジが持つSDAT規格のウォークマン。カセットテープ型の記憶媒体を使用した携帯型音楽端末で、SDATは「Super Digital Audio Tape」のこと。なお、DATはPCM方式でデジタル化した音声を磁気テープに録音、再生する規格。高い音質を誇るため、業務用の録音機器などに使われている。



記憶媒体の主流がCDではなく、カセットテープなのかどうかは不明。シジの盗聴手段、心の安否として用いられている。

S⁺機関

使徒が持つ永久動力。S⁺は「Super Solenoid」の略であり、理論は葛城博士が提唱した。使徒の自己修復や変態能力はこの機関によるものだと考えられる。人類にとっては未知の動力だったが、第4使徒シャムシエルなどから入手したらしきS⁺機関をドイツにて修復、データ化して実用化にこぎ着けたと推測される。修復した機関は、アメリカの第2支部でEVA4号機への搭載実験に使われた。その結果、何らかの事故により支部ごと消失してしまう。無視といえるエネルギーを生み出す動力だが、人類が知らずに危うい禁断の実であった。また、EVA量産機にも搭載されており、S⁺機関を解放することでアンチA.T.フィールドを生み出し、サードインバクトを導いた。なお、スーパーレノイドは、DNA分子の集合体であり、遺伝子の二重螺旋構造を形成している。



初号機は第14使徒ゼルエルを捕獲することで直接S⁺機関を取り入れ、最大でも6分だった稼働時間を無断に延長した。

S⁺理論

葛城博士が提唱した恒久的なエネルギー供給理論。世界を

DNA構造に見立て、そこからは無尽蔵のエネルギーを引き出せるという理論だが、可能かどうかは定かではない。博士がセカンドインバクト以前より編み上げていた理論が、突飛するため学会には受け入れられなかった。しかし、S⁺理論を体現した動力、S⁺機関を持つ巨人が南極で発見されたため、関らずとも氏の理論は実証される。

SU-27

旧ソ連で開発された戦闘機。航続距離の長さと高い機動性を持ち、コブラと呼ばれるポストストロール機動が可能な機体。しかし、F-15などの同世代戦闘機と比べてコンピュータ性能が低く、ロックオン能力に劣っているとされる。第八話において、国連軍の太平洋艦隊の空母オーバー・ザ・レインボウに配備されていた。



初号機が空母に着陸した際、太平洋の海に落ち、残ったSU-27はガキ軍団に譲られるが、落とされたプロレック・ナフ(改)で輪切りにされました。

n²兵器

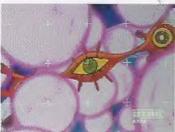
人類が保有する中でも最大級の破壊力を持つ現行兵器。核ではないため放射能汚染の危険性はないのだが、地図が描き変わるほどの威力があり、核兵器と同等の破壊力を持つと思われる。そのため、「n²」は「No Nuclear」の略ともいわれるが詳細は不明。使用時には高エネルギーの照射によって電子機器に影響を及ぼし、電波障害を引き起こす。国連軍、戦略自衛隊、NERVなどが保有し、n²爆弾、n²地雷、n²爆雷、n²航空爆雷など用途によって複数のバリエーションを持つ。現存数は多くない。なお、第七話において、破シジたちの中学校的教科書にあった「東京に落とされた新型爆弾」とは、n²兵器だった可能性もあるだろう。



第六話において、デラックの海に囚われた初号機の操縦サルベージ作戦が展開されるが、そこでn²爆雷の残存数が92個だと判明する。

n²航空爆雷

第八話において、衛星軌道上に現れた第10使徒サハウィエルに用いられたn²兵器。真空中で用いられるタイプだと考えられる。



複数のn²航空爆雷が使われたようだが、サハウィエルには全く効かなかった。

n²地雷

第八話において、第3使徒サキエルに用いられたn²兵器。使徒の爆攻によって国連軍の戦車大隊が全滅、航空戦力が阻止にもならなかったという事実を受け、作戦の予定通り使用される。なお、この爆発の余波で、ミサトの乗るアルビース・ルノーA310(改)が破壊された。



国連軍の切り札だったが
足止めにもならず、サ
キエルの機動増幅を招く
結果となった。

n²爆弾

第九話において、第14使徒ゼルエルに用いられたn²兵器。自爆覚悟の零号機が超接近戦で使用した。EVAの装備ではなく、本来の用途は別にあると思われる。他のバリエーションに加工するまえのn²兵器だと考えられる。



ゼルエルのコアを直接狙うが、防護ジャケットのようなもので守られる効果はなかった。

n²爆雷

第九話において、国連軍第2方面軍より第7使徒イスラファエルに用いられたn²兵器。また、第十話では、A-17発令による使徒捕獲作戦が失敗した場合、その熟練理として用いられる予定だった。国連軍の航空部隊がよく用いており、空中からの投下タイプだと考えられる。



構成物質の28%を後部処理したことで、イスラファエルは再生に6日間を要した。

YEBICHU

葛城ミサトが愛飲しているビールの銘柄。なお、TV放映当時は「YEBICHU」だったが、VD&LD化されるにあたって「YEBISU」に変更されている。



ミサトの自宅にある冷蔵庫には、買い置きされたビールがぎっしり詰まっていた。